

ボランティア・支援の在り方を考える①

岩手県大槌町立小学校の子どもたちからの返信や学校からのお手紙をいただいて、本当に嬉しく思います。「三小の子どもたちの思いが届いた」と、ホッとしたからです。何人かの児童も「校長先生、返事をもらったよ」と嬉しそうに報告してくれます。しかし反面、内心そういうこと（返信やお礼）を期待していた自分が恥ずかしくなりました。

阪神・淡路大震災の際、被災者とは直接関わらない後方支援をボランティアでしていた人が、TVで「こんなことをやるために来たんじゃない」と言っていました。要するに「こんなに汗水流して支援しているのに、一言のお礼も言われぬ」と憤慨していたのです。世の中には、そういう勘違いをしている人もいるんだなあときかれていたのですが…。

そういう意味で、今回、暑中見舞いの取り組みを通して、子どもたちにも、ボランティアって何なのか、支援の在り方について考えさせる貴重な機会になったと思います。しかし、この取り組みを打ち上げ花火的に終わらせてしまうと、全くの自己満足になってしまい、子どもたちも「親切にしてあげた」程度の薄っぺらなものとなり、真に人を思う気持ちや支え合いの精神につながらないのではないかと、という気がしてきました。

朝会の「みなさんが大人になっても、元通りの生活ができていないかもしれません。安渡小学校の人たちのように、『考えたら実行すること』が大切だと思います。これからも、三小のみなさんには、自分には何が出来るか考えてほしいと思っています。」の副校長の話の通り、これからどうするかが大切だと思います。私たちも、子どもたちも、考え、実行することが大事です。

例えば、暑中見舞いと年賀状を、三小の子どもたちが30年間届け続ける。ただし、返事はもらわない。つまり、相手を思っているという気持ちだけを、忘れていないという思いだけを、伝え続ける。そういうことが大事なのではないかと思います。

東久留米市立第三小学校の皆様
暑中見舞いのおはがき ありがとうございました

こしは海には行けなかつたけど、プールに行きました。心ばいせれてありがとうございます。まじまじとお礼を言っています。

夏は、プールに行けなかつたけど、かぜひまひきませんでした。こやからもかぜひまひひらいていようよ。

私は夏休みにプールに入りました。泳ぎが上手になりました。かき氷を食べたのは、今年初めてです。今年も暑い夏を過ごしたいです。

わたしは海には泳げなかつたけど、友達とプールで泳いでいたの。あついな夏の思い出です。わたしは今とても元気です。

夏休みにプールに入りました。泳ぎが上手になりました。かき氷を食べたのは、今年初めてです。今年も暑い夏を過ごしたいです。

おとこがありがたうございました。そうさ書いてあげてくださる方が嬉しいです。

ぼくは夏休みにプールにはいって楽しかったです。ぼくは元気です。みんなのみんなは元気ですか。

みなさんのおかげで元気がよくなりました。ね。ちゅうしょうにもなりました。

海には、行けなかつたけど、プールでいっぱい泳ぎました。

暑中見舞いありがとうございます。今年も暑い夏を過ごしたいです。

岩手県 大槌町立 吉里吉里小学校

ボランティア・支援の在り方を考える②

自分の職務と直接関係のない事柄は、損得抜きで考え易いのですが、私たち教師の仕事は、どこまでが職務で、どこまでが職務外なのか、はっきり線引きできない部分があります。休日に教材準備のために来校したり、自宅で仕事をして、勤務として認められません。しかし、ほとんどの教員は必要に迫られて、勤務時間外にかなりの時間を仕事に費やしています。それに加えて、例えば、中学校の部活顧問は、朝、放課後、休日にも練習があります。相当の時間と労力が必要です。しかも、すべて教員の善意（ボランティア）で成り立っています。本校の金管の指導も同様です。さらに地域行事の盛んな地区では、休日の行事も教員が参加せざるを得ない実情があります。ほとんどの場合、勤務とはなりません。私自身も教員時代、部活の指導、教科研究、学級経営、校務分掌いずれも全力で、毎日12～15時間くらい学校にいました。土日仕事をしていました。

などなど…、このようなマイナス思考でネガティブに考えると、これまでの生活は続けられなかったと思います。やがて私は「やるべきことは全力を尽くす」という考えから「やれることはすべてやる」という考えをもつようになりました。すべてを度外視して仕事をするのが最善とは思いませんが、仕事に対する気持ちは楽になりました。

被災地への支援も、ある意味同じで、頭の中で理屈をこねていたのでは、何も出来ないで終わってしまうと思います。結局、本当に大切なものは目に見えないし、理屈ではないんだろうと思います。自分自身がどう考えるか、自分次第でしょう。校長室前に震災関連の本を置きました。すぐに何人もの児童が借りにきました。子どもは純粋です。心に正直だと思いました。

